

令和2年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和2年 7月22日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午後 0時00分

○会議に付した事件

協議事項

1. 令和元年度まちづくり町民意識調査報告書について
 2. 子育て支援事業（道内自治体）について
 3. 要保護・準要保護の援助状況について
 4. 子育て世代・移住者等定住促進支援事業の実績について
 5. 研究計画の検討
-

○出席委員（8名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	久 保 一 美 君	委 員	長谷川 かおり 君
委 員	貳 又 聖 規 君	委 員	森 哲 也 君

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	高 橋 裕 明 君
主 査	小野寺 修 男 君
主 任	村 上 さやか 君

人口減少に対応する政策研究会（第3回）

【調査事項】

事務調査：少子化対策及び子育て支援について

1. 令和元年度まちづくり町民意識調査報告書について
 - (1) 改善ニーズの推移について **資料1**（高橋局長）
 - (2) 調査結果について **資料2**（高橋局長）
 - (3) 高校生アンケート調査結果について **資料3**（高橋局長）
2. 子育て支援事業（道内自治体）について **資料4**（高橋局長）
3. 要保護・準要保護の援助状況について **資料5**（小野寺主査）
4. 子育て世代・移住者等定住促進支援事業の実績について **資料6**（小野寺主査）

○高橋局長 実施毎の調査結果のみならず、長期間の推移状況を見る必要がある。

○大淵座長 新婚家庭への生活支援は、出産・結婚祝金品に入るのか。

○高橋局長 結婚祝金品あるいは住宅家賃転入補助のどちらかに入ると思う。

5. 研究計画の検討

(1) 人口減少対応の研究テーマ（若者定住促進）について

- ① 比較検討・事例に関する資料の追加要望

○氏家委員 少子高齢化により若年層の税金負担が大きくなると思うので、それに対する配慮が必要である。

○久保委員 高校生のアンケートの声は切実で、働く場がないことを示している。

○高橋局長 働く場がないという声の一方で、町外へ働きに行く人が1,000人、町外から働きに来る人が1,500人いるという状況である。

○氏家委員 都会に憧れてまちを離れて、その上で戻って来る人や出た先で暮らすようになる人がいる。都会志向は歯止めがきかない部分があるが、まちの魅力についての種を予め植えておいて、何かあったときに戻って来られるような環境づくりが大切である。

○久保委員 町から出ていく人、町へ入ってくる人、様々いるので、多方面から捉えることが大事である。

○佐藤副座長 就職して数年が経ち、働くことに少し疲れて、仕事のスキルはいくらか上がり、地方に行くことを考える機会が出てくる。就職する前は遊ぶことを主に考えていたが、働くようになると暮らしへのニーズへ変化していくと思う。20歳代以外の人々のニーズはどうか。

○大淵座長 資料を見る限り、白老町の子育て支援は充実している方であるが、それだけでは測れないものがあるようだ。果たして制度の充実により若い世代の人口は増えるのだろうか。高校生の要望を満たせばこのまちに人は暮らすようになるのだろうか。若い世代の自然増と社会増はいかにして達成できるのか。ほかのまちで実施している制度は白老町には必要なのだろうか。

○高橋局長 上下水道料でいえば、白老町は高すぎるわけではないが、苫小牧市が道内1位と非常に安いので、それに影響されて「白老町の上下水道料は高い」と認識されることがある。状況を客観的に捉えて町民へ伝える必要がある。

○氏家委員 ほかのまちとの比較による問題はあつた。白老のよさを感じて暮らしてもらいたい。その部分を政策研究会として追及していく必要がある。隣まちにはない魅力をつくり出していく。

○貳又委員 地域医療には地区ごと、年代ごとの差があり、その分析が必要である。移住・定住に結びつけるならば、入り口を意識して苫小牧を意識した戦略が必要である。子育てするには苫小牧がよいが、職場が白老であると、苫小牧から通うのは大変だという声もある。白老に住みたいが事情や状況により住めないという人もいるのと思う。集落支援員による、住宅を手放すためサポートの取り組みの検討が考えられる。

(2) 調査方法について

- ① アンケート調査項目の検討

○大淵座長 議会として考える若者定住とは何かを考える。アンケートは、過去に実施した際は広報げんきに折り込みをして配布した。アンケート調査についての考え、実施の是非、実施するとすればその内容などの意見を。

○氏家委員 項目は少なめに10個程度が望ましい。その中でニーズを掘り起こしたい。

○西田委員 前回広報に入れたアンケートは、世帯の中で回答する人がおのずと限られて、自分に関わることができなかつた。若い人や女性はなおのこと回答者になりにくい。そのようなことを考えると、回答者の属性に偏りが出ないように、ランダムにアンケートの回答者を抽出できるとよい。もう一工夫が必要である。

○氏家委員 アンケートでは何を聞きたいのかを明確にし、方法を工夫することが重要である。

○貳又委員 効果的な調査手法の一つとしてグループインタビューというものがある。属性ごとに数人を集めて聞き取りを行うニーズの探り方である。調査にあつては、予め仮説を立てて、その上で聞き取りを行うことが望ましい。今後は中古住宅に住もうとする人への支援が大事であると思う。

○大淵座長 アンケートの実施主体は自分たち委員であるので、その点を踏まえて今この場での議論を深めてほしい。

○氏家委員 グループインタビューのような調査は今までにない取り組みである。属性の取り方や人集めの方法により、調査結果が大きく変わってくる。

○貳又委員 属性の取り方として、例えば、子育てサークルなどに声掛けをすることができる。調査目的により仮説を立てて、その上で誰を呼ぶか、何を尋ねるかを定めるものである。

○氏家委員 空き家の活用策について、交通の便利な所へ引っ越したい人のマッチングの支援が必要である。

○大淵座長 アンケートは全体の傾向をつかめるようにすることが大切である。

○氏家委員 アンケートはある意味一方通行であるが、それを受けて議会として町民にグループインタビューを行って成果を出すということが考えられる。

○貳又委員 グループインタビューについては、個人の意見は社会全体の意見の縮図となる。

○大淵座長 アンケートとは別にグループインタビューを行うのがよい。

○西田委員 町民意識調査アンケート以外の項目で聞きたいことがあれば、議会としてアンケートを取るべきである。政策研究会の人口減少対策の内容からいけば、町のアンケートと重複するのではないか。

○氏家委員 町のアンケートは回答しにくい部分があり、何を聞きたいのかが分からないと感じた。もっと簡潔であるべき。

○大淵座長 大事なものは「議会」がアンケート調査をすることである。現状把握をせずに対策ができるのか。調査そのものの現状として、アンケートを出すと7割方高齢者から回答がくる、ということを押さえる必要がある。

○長谷川委員 子育て支援の充実のほか、しっかりとした企業や働き先が必要であると聞いた。アンケートにはどのような仕事をしたいのかなど、雇用に関する項目が必要である。

○森委員 アンケートをしてからヒアリングをするのがよい。

○大淵座長 アンケートは次回また検討するため、自分の考えをまとめてくること。アンケートは年内実施で検討したい。

②講演会・勉強会の検討

○大淵座長 講演会、勉強会の実施について、予算はあるのか。

○高橋局長 7万5,000円ある。

○大淵座長 講演会をするのはどうか。

○氏家委員 質疑応答ができて、今後の付き合いにつながるような講師は。小磯先生や今井専務理事など。

○大淵座長 講演会を実施するということによろしいか。(一同：よろしい。)

○大淵座長 人選については正副座長一任でよろしいか。(一同：よろしい。)

○大淵座長 議員や職員で聴講できる講演会にしたい。

○貳又委員 国の地方創生会議でも活躍している、一般社団法人北海道総合研究調査会(HIT・ヒット)の理事長である五十嵐智嘉子さんはどうか。

○西田委員 日本総合研究所研究員の藻谷浩介さんはどうか。

○高橋局長 講演料の予算は3万円である。人選によっては9月補正予算が必要である。

③ヒアリング・レクチャーの検討

- 大淵座長 ヒアリングは次回皆さんの意見を聞きたい。レクチャーは自然増と社会増についての町の具体的な施策から聞くことを考えている。町に要望する場ではない。その上で政策研究会としてさらに検討を進める。
- 西田委員 いくつかの担当課から話を聞く必要があると思う。
- 大淵座長 基本的には担当課から別の機会で見聞取りをする。まずは、社会増・自然増の話聞く。この部分だけは薄まらないようにしたい。
- 大淵座長 それでよろしいか。(一同：よろしい。)
- 大淵座長 ヒアリングは個々の若い人と具体的に話すのは難しい。法人、会社、団体の人事担当者や責任者に話を聞く。ナチュラルサイエンスやリハビリテーションセンターなどを想定している。
- 氏家委員 議会として足を運んでヒアリングを行うのが重要である。検討の切り口が必要で、政策研究会のテーマがあるからこそ、ヒアリングを行う意義がある。企業の理解や協力が得られるようにする。
- 大淵座長 日本製紙にも久しく訪問していないのでどうだろう。町外から通っている若い人を白老で暮らすようへ誘導できるか。
- 西田委員 事前にアンケートを用意して、それを済ませてもらった上で、人事担当者に聞くという方法はどうか。事前準備が必要であるが。
- 大淵座長 アンケートを事前に手分けして配りに訪問するのか。ヒアリングに行ったときにアンケートを置いてきた方がよいのではないか。
- 大淵座長 案を正副座長でつくるということでよろしいか。(一同：よろしい。)
- 西田委員 ヒアリングに行くのは全員なのか。何人かで分けて行くのか。この時期なので、少々考えた方がよい。
- 大淵座長 次回はアンケート、講演会・勉強会に関する検討をし、その次の回から具体的な実行を行う。